

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104989		
法人名	ラッキー自動車株式会社		
事業所名	グループホーム 陽光の家		
所在地	長崎県長崎市三川町924-5		
自己評価作成日	令和2年9月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業者は、理念にもうたっているように(ゆっくり・ゆったり・のんびり・自由にありのままに)をモットーに日々の生活を送って行くことを目標に運営しています。ご家族様との連携も管理者を軸に蜜に行っていける様に努力しています。入居者様の高齢化に伴う支援をどうしていけばよいか常に考えて職員一同が同じ方向で努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは自然に囲まれた長崎市三川町の住宅地にあり、理念に掲げている「ゆっくり・ゆったり・のんびり・自由にありのままに」を実践できる環境にある。管理者やケアマネジャーを含めた全職員が互いに相談・連絡し、気づいた点は注意し合いながら親身になって入居者へのケアに従事しており、福祉事業部長の指導のもと、排泄介助とホームの清掃を徹底し清潔な住環境づくりに努めている。運営母体がタクシー会社で使用可能な車種が豊富であることから、その強みを活かして入居者とともにドライブ等に外出するなど、ホーム内に閉じこもらず入居者の気分転換を図りながら楽しみある生活が送れるよう工夫している。ホームが自治会に加入していることもあり、地域の夏祭りへの参加やボランティア・ホーム見学の受け入れのほか、地域の方に避難訓練に参加してもらうなど地域との繋がりが深い。現在、ホームの老朽化に伴いリフォームも検討しており、今後の更なる入居者支援に期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム陽光の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは毎回出勤時に事務所に掲示してある理念・スタッフ心得を唱和して勤務に当たっています。	ホーム開設時からの理念である「ゆっくり・ゆったり・のんびり・自由にありのままに」を毎日唱和することで職員の意識づけを図っている。職員は理念をもとに個人目標を設定し、入居者に合わせたゆっくりと優しい対応・介助を心掛けながら日々の業務に専念している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に施設として加入し入居者様が地域住民の力と交流を図れるように行事等にも参加している。	ホームは自治会へ加入し、地域の行事等にも積極的に参加している。コロナ禍の影響で現在は地域との交流は自粛しているが、コロナ禍以前は地域の夏祭りに入居者と一緒に参加したり、ボランティアや学校からの訪問などの受け入れも行っており、地域との関係は良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政・自治会・民生委員の方々の参加を得て施設の状況、入居者様の現状を理解頂き支援を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営会議を開きその都度関係名所へ案内を出し、施設で議題を決め意見交換を行い入所者様へサービス向上へと繋げています。	運営推進会議には管理者・ケアマネジャー・職員・自治会長・民生委員・市職員等が参加し、活動報告などを行っている。家族にも参加の案内を出しているが、仕事などで参加が難しい。運営推進会議に参加していない職員は議事録を閲覧することで、情報の共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上、疑問点や相談事が発生した時等は行政へ連絡をし支援・協力を得ている。行政主催、協議会主催の勉強会にも出来る限り参加する様に心掛けています。	市の担当者(すこやか支援員)と情報交換を行っており、入居者への対応など日頃の業務についても相談できる関係性を築いている。コロナ禍以前は市などの行政主催の研修会にも職員が参加し、市との連携を深めるとともに、職員のスキルアップに繋げていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的、言葉的拘束には、管理者及びスタッフ全員で意識し合って、その都度注意・指導し合う様に徹底しています。	ホームでは身体拘束に関する指針・マニュアルを整備し、全職員へ周知することで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロック(言葉による拘束)等にも留意し、優しい声掛けを行うよう徹底している。職員同士で気づいた点はその都度互いに注意し合えるような職場環境づくりを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の勤務で常に意識を持ち介助の方法を考えながら虐待のない様に徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者はいませんが、研修会等で理解するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を全部説明し納得頂き、改定時などは家族会を開き説明、意見交換を行い運営に役立てています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々に問題等があればご家族の方とも相談し、全体にも家族会を開催し意見交換を行い運営に役立てています。	敬老会や家族会の案内を家族へ出しているが、仕事の都合やコロナ禍の影響もあり、家族の参加は得られていない。入居者状況等の報告については毎月1回の電話連絡で行っており、その他状態に変化等がある場合にはその都度電話連絡している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎日の朝礼・終礼時に意見交換を行うようにしています。	毎日のミーティングのほか、普段の業務の中で管理者が職員からの意見や要望を聞くようにしている。管理者は必要に応じて職員と個別面談の機会を設け、入居者への対応などの相談に対して助言している。職場の同僚や管理者を含む上司への相談がしやすい職場環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境が人的に余裕のない状態の中でも少しでもやりがいのある状態に出来る様に勤務状況の把握・給与体制管理・労働時間管理を行いスタッフのやりがいのある職場を目指し努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加・内部研修を積極的に行い、介護力の向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHホーム協議会へ参加し、全体研修・地域研修へ出席し、質の向上を目指しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の説明、入所してから暫くの間は、本人の状態をよく観察してご家族との連携を取りながら安心して過ごされるように努めてまいります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族様とも十分に話し合いを行い不安・要望などをお尋ねして常に連帯を密に行い、ご家族様が安心出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネージャーは本人・家族からのお話を伺い問題点やサービス向上に繋がっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全ての介助を行うのではなく、本人が出来ることは本人にやって頂く。自立支援の基本を忘れることなく介助を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ本人の状態説明やご家族からのお話等伺い、本人が穏やかに過ごせるように心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・知人などが来訪しやすい環境を整え、本人の癒しになれるように努めています。	入居者の昔からの友人・職場の同僚、教師をしていた頃の教え子などこれまでの関係性が継続できるよう支援しており、感染症対策を行った上で入居者本人の居室で面会を行っている。散髪は家族が馴染みの理美容店へ連れて行くほか、希望する方には美容師免許を持つ職員が支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度の違いはありますが、職員の対応でお互いが穏やかに過ごして頂けるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も出来るだけ相談等の支援をさせて頂くように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や状況を把握し、またご家族とも話し合いの場を持ち、職員の意見も聞き入れながら把握に努めます。	入居時に家族や入居者本人より入居後の意向など情報収集を行っている。また、職員が入居者との普段の会話を通じて信頼関係を築き、入居者に寄り添い傾聴することで本人の思いや意向の把握に努めている。把握した情報は記録とミーティングを活用して全職員で共有し実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・職員間で話をし、情報の共有、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活状況、疾病、ご家族との関係等を良く理解して現状の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との話を元に出ることは取り入れています。職員とは介護面での意見交換を行い情報の共有を行っています。	入居者の状態に大きな変化がない場合、概ね6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。ホームでは入居者や部屋毎の職員担当制ではないため、ケアマネジャーは管理者を含む全職員から聞き取りを行った上で評価を行い、介護計画を作成している。	入居者からの意向や要望については普段の聞き取りや職員間の情報共有により把握できているが、介護計画における目標の把握が不十分であった。全職員が介護計画における長期目標及び短期目標を十分に把握した上で介護実践できるよう工夫することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録簿は第三者が見ても解るように書くように職員が統一し、情報の共有化に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人とご家族様がいつでも会えるように施設側も常に心掛け、その都度対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会へ施設として加入し、入居者様が地域住民との交流が図れるよう行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員にかかりつけ医があり、訪問診療も受けている。日常においても異変があれば連携病院へ連絡し、適切な指示を受けている。	ホームでは入居前からのかかりつけ医を継続することが可能である。医療機関への受診は家族が対応することとなり、受診後は医療機関からの連絡や家族からの報告をもとに申し送りを行うことで職員間で情報を共有している。協力医療機関からは毎月1回の訪問診療がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員はいないが、居宅療養管理指導を受け、入居者の状態を知っている看護師に相談しながら健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院との連携を密に取り、施設側の情報提供はもちろんの事、双方の情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の体調の状態に於いては、医療機関やご家族とよく話し合いを行い、本人にとって最良と思われる支援を行っています。	ホームでの看取りは行っておらず、入居者本人及び家族には入居時に説明し同意を得ている。入居者の病状が悪化する傾向にある場合は、主治医及び家族と連携しながら入院等へ繋げている。入居者の急変時には管理者へ連絡し、管理者から指示を出すよう徹底している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時は、担当職員は速やかに管理者へ連絡を取り、関係機関への連絡指示を受ける様に常に心掛けています。尚、緊急時に備えての訓練も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を行い、災害時に備えて安全に行動出来る様に、定期的に確認し、指導を行っています。	ホームでは定期的に避難訓練・消火訓練を行っており、全職員が交代で参加している。また、コロナ禍にある現在は自粛しているが、通常消防署立ち会いの訓練の際には自治会長や民生委員も参加し、地域との協力体制を築いている。重度の方については車椅子を利用した避難を想定しているが、状況に応じて毛布等を活用した訓練も行っている。	定期的に避難訓練及び消火訓練を実施しているが、自然災害や夜間想定訓練について十分できているとは言えない。今後、自然災害や夜間想定訓練実施のほか、あらゆる状況を想定した訓練を実施することで、有事の際の迅速な行動や円滑な入居者安全確保に繋げることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人としての尊重と尊厳を第一に心掛け、職員の行動及び言動について、管理者等は特に気を付けています。不適切な行動や言動があった場合は、その都度適切な指導を行っています。	排泄誘導や失禁があった場合の入居者への声掛けの際、職員は声の大きさやトーンに注意しながら行うよう努めている。数年前に入居者から職員への不適切な行為があったが、その際も入居者の尊厳を傷つけないよう配慮し対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、可能な限り職員全員で対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本敵には本人の希望を尊重して支援しています。職員側の都合で行動しているような場合にはその都度注意しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の体調を良く観察し、身だしなみなどにも気をくばり、気分転換の意味も含めて必ず行います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調の良い入居者には、進んで参加してもらっています。最近、入居者様の高齢化が進み危険性のない範囲で手伝ってもらっています。	食事は外部の業者に委託しているが、おやつは季節に合わせてかき氷やふかし芋など手づくりし提供している。職員は入居者と一緒に食卓のテーブル拭きを行うなど、残存能力に応じた支援に努めている。コロナ禍以前は外食なども計画的に行っており、家族と一緒に外食に行く場合は家族へ留意事項等を助言し、円滑に外食できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在は、外注による食事管理を行い、一日分の食事摂取量や水分摂取量の管理及び記録を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導・声掛けにて口腔ケアを実施しています。ご家族の了解のもと、訪問歯科の受診を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導・声掛けにて、食事前後に行くようにしています。本人の状態を観察して声掛けをするように努めています。	ホームではオムツを使用する方はおらず、職員は排泄チェック表を活用し、定期的に声掛けや誘導を行うことでトイレやポータブルトイレでの排泄に繋げている。また、排泄時間だけでなく尿量等も確認し、適宜水分補給を行いながら健康管理を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬調整・食事内容・運動効能などで総合的に自然排便に繋がる様に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日で入浴を行っています。本人の身体状態によっては伸ばしたり、毎日だったりすることもあります。	ホームでは基本的に週3回午後から入浴支援を行っているが、入居者本人から希望があれば毎日入浴することも対応可能である。職員は菖蒲湯やゆず湯など季節を感じられるよう配慮するほか、入浴中は常に入居者から目を離さないように心掛け、安心・安全に入浴できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活の中で、本人が過ごしやすいように観察支援しています。季節によっては、冷暖房を使い過ごしやすい環境を作る様に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに添付している服薬内容を職員が把握し、本人の状態観察を常に行うようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設全体で外出機会を作ったり、ご家族との外出機会を作ってもらったりして、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	其の時々外出計画を作り、個人の希望で外出届けがあればできる限り行えるように支援している。ふれあいセンターや公園が近くにあり自治会主催の行事にも参加し、季候の良い時には、周辺の散歩などして近所の方との触れ合いも行っています。	職員はおくんちやランタンフェスティバルなど季節に応じた外出計画を立案し、外出支援を行っている。コロナ禍の影響により外出することが難しくなったが、ホーム駐車場で日光浴をしたり、ドライブに出掛けたりするなど、外気に触れることで入居者の気分転換を図り、楽しみのある生活が送れるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から、施設に一時的にお預かりして、本人が必要な時に渡せるように管理しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から申し出があるときは、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地全体が狭い中でも落ち着いて過ごせるように工夫をし、庭には小さいながらも花壇を作り癒しの空間を作っています。	入居者が日中過ごすことが多いリビングは毎日清掃を欠かさず清潔に保っている。また、毎日の清掃に加え、食前の消毒や定期的な換気と湿度の管理など新型コロナウイルス感染症への対策も行っている。福祉事業部長の指導のもと、気になる臭いへの対策も行い、入居者が気持ち良く過ごせる空間づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいても各自お気に入りの場所があり、自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の部屋は、本人の馴染みのある家具等を置き又、本人・家族様が使いやすい様に配置して思い思いの過ごし方をしています。	ベッドやベッドサイドのテーブルはホームで準備しており、その他のタンスや衣装ケース、テレビなどについては入居者の馴染みの物を持参してもらい、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮している。エアコンの清掃は男性職員が定期的に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には十分に配慮を行い、全員が集団生活の中でも自立した生活が送れるように工夫を凝らしています。		